

喫煙本数

更新日：2007.3.30

<代表値>

喫煙本数（習慣的な喫煙者）：19.8 本/日

：21.5 本/日（男性），14.6 本/日（女性）

<代表値のもととなる資料>

厚生労働省（2006）が実施している「平成 16 年国民健康・栄養調査」では、国民の身体状況や栄養摂取状況調査に加えて、喫煙の項目を含めた生活習慣調査を行っている。調査客体は、平成 16 年国民生活基礎調査で設定された単位区から層化無作為抽出した全国の 300 単位区の世帯（約 5,000 世帯）及び世帯員（約 15,000 人）である。そのうち喫煙状況の調査では、成人男女 7,479 人（男性：3,438 人，女性：4,041 人）を対象とし、年齢階級別、喫煙本数別に喫煙者の割合が調査されている。ここでは現在習慣的に喫煙している者を対象に、1 日の喫煙本数別の喫煙者割合を示す。習慣的に喫煙している者では、1 日に 11～20 本吸う人の割合が最も高く 53.7%である。男性においても、喫煙者の割合は 11～20 本で最も高くなっており 55.4%である。女性の場合は、1～10 本と 11～20 本が最も高くなっており、21 本以上吸う人の割合は男性のそれと比べて非常に低くなっている。

1 日あたりの喫煙本数の平均値は、全国総数では 19.8 本，男性 21.5 本，女性 14.6 本と報告されている。

1 日の喫煙本数と喫煙本数別喫煙者割合

	人数	平均値（本） 〈標準偏差〉	喫煙本数別喫煙者割合（％）				
			1～10本	11～20本	21～30本	31～40本	41本以上
全国総数	1,969	19.8 <9.9>	21.7	53.7	16.3	6.3	1.9
男総数	1,486	21.5 <9.9>	14.7	55.4	19.4	8.1	2.4
女総数	483	14.6 <7.9>	43.3	48.7	6.4	1.0	0.6

出典：厚生労働省（2006）

<追加的情報>

厚生省保健医療局（1999）では、1999（平成 11）年 2 月 17 日から 3 月 2 日までの 14 日間、喫煙の実態を把握するために喫煙歴、ニコチン依存の状況、受動喫煙などについての全国的な調査を行っており、「平成 10 年度 喫煙と健康問題に関する実態調査報告書」として公表している。調査客体は、平成 10 年国民生活基礎調査で設定された単位区から無作為抽出した全国の 300 単位区の 15 歳以上の全世帯員である。対象者数は 13,992 人，そのうち回収数は 12,858 人であった。この「平成 10 年度 喫煙と健康問題に関する実態調査報告書」では、1 日あたりの喫煙本数別の喫煙者割合も報告されている。喫煙本数別の喫煙者割合は、現在喫煙者（これまで合計 100 本以上または 6 ヶ月以上たばこを吸っているもので、過去一ヶ月間に毎日または時々たばこを吸っているもの）である 3,761 人（男性 2,928 人，女性 723 人，不詳 110 人）を対象としている。成人全体では、1 日に 11～20 本のたばこを吸う人の割合が 49.6%と最も多い。男性では喫煙本数 11～20 本が 51.8%と最も多く、女性では、喫煙本数 1～10 本，11～20 本の割合が 42.7%，46.4%と高い。他に、男女・年齢階級別 1 日あたりの喫煙本数別喫煙者割合も報告されている。

喫煙本数

更新日：2007.3.30

1日あたり喫煙本数別喫煙者割合（％）

	1-10本	11-20本	21-30本	31本以上
男性	14.9	51.8	19.6	13.7
女性	42.7	46.4	8.2	2.8

出典：厚生省保健医療局（1999）

<数値の代表性>

◇ 代表値の信頼性：高

一般的な判断基準に基づくと、信頼性は高いといえる。

◇ 代表性に関する情報

代表値のもととなる資料

厚生労働省（2006）の平成 16 年国民健康・栄養調査では、全国を対象とした国民生活基礎調査で設定された単位区から 300 単位区（新潟中越地震の影響により、うち 2 単位区を除く）内の世帯と世帯員を無作為に抽出しており、喫煙状況の調査における対象者数は 7,479 人となっている。

追加的情報

厚生省保健医療局（1999）の「平成 10 年度喫煙と健康問題に関する実態調査報告書」では、全国を対象とした国民生活基礎調査で設定された地区から無作為に 300 単位区を抽出しており、調査人数は 12,858 人である。そのうち喫煙本数別調査の対象となったのは、現在喫煙者の 3,761 人である。

◇ 入手できた情報の数

上記の 2 資料のみであった。

<引用文献>

代表値

厚生省（2006），平成 16 年国民健康・栄養調査報告，

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyoubu06/01.html>（アクセス日：2006.12.19）。

追加的情報

厚生省保健医療局（1999），平成 10 年度 喫煙と健康問題に関する実態調査 報告書。

<更新履歴>

2007.3.30 / 代表値のデータを更新しました

米国 EPA 暴露係数ハンドブック

米国 EPA の暴露係数ハンドブックでは、喫煙に関する推奨値は設定していないが、本文中に喫煙に関する表がいくつか掲載されている。そのデータのもととなったのが Tsang and Klepeis(1996) : National Human Activity Pattern Survey (NHAPS) である。この調査は、米国 EPA が 1992 年から 1994 年にかけて、米国を代表するよう選ばれた 9,386 人を対象に行ったものである。この調査では、1 日の行動場所、活動、また暴露に関連する出来事（個人暴露、世帯の特徴、医療背景）が調べられており、現在のところ最も大規模で最新の調査と記述されている。喫煙本数に関するデータとして、喫煙本数別の喫煙者割合が示されており、そのデータをもとに、喫煙本数区間ごとの喫煙者割合を用いて、独自に喫煙本数の加重平均値を計算すると、男性 18 本、女性 15 本となった。この計算では、喫煙本数区間での喫煙本数として、その区間範囲の中央値（例：1～2 本の場合は 1.5 本）を用いた。